

Do!とくコーナー・4年生

資料 ～ 名前のない手紙【テーマ 友情】～

わたし(井上明子)は、苦手の理科のテストで初めて80点以上をとり、思わず「わあ、83点。やった!」と叫んでしまう。その場で先生からも励ましの言葉をいただく。わたしは、調子に乗ってしまい、「…次は90点とります。」と、みんなの前で先生に言うてしまう。

その後、クラスのみんなが、急にわたしのことをのけ者にし、わたしがそばへ行くと すうっと離れていき、誰ひとり口をきいてくれないことが何週間も続く。

その後、杉田光子がみんなに、わたしともう絶対に仲よくするなという指令を出したことを知る。光子は成績トップで活発なリーダー的存在であり、光子の指令なら、みんなは逆らえない。しかし光子は元々わたしの1番の仲よしであった。わたしは、もしかして83点のあの理科テストが原因ではないか、今回の理科テストでは たまたま光子はわたしより低い点だったのかも、…と考える。でも、光子には抗議できない。ひとりでみんなを敵に回す勇気はない。来る日も来る日も、わたしは、ひとりぼっち。そんなつらい日々が何週間も続く。

ところが、ある日わたしの筆箱の中に手紙が入っている。「…杉田さんの言うとおりにしているけど、井上さんを本当に嫌っているのではないよ。ほかにも同じ気持ちの人がたくさんいるよ。…」と。名前のないその手紙をわたしは何度も何度も読み返す。心の中に明かりが灯ったような気がする。手紙はその後日もたびたび筆箱に入れてある。励ます内容や健康を気遣う内容、等々。

やがて、吉野はるえという子が転校することになり、お別れ会の日、はるえは次のようにみんなに話し始める。「…どうしても言わなければならないことが…。何も理由はないのに、みんなの真似をして井上さんを仲間はずれに…。とても恥ずかしいことをしたと反省している。…本当に御免なさい…。」すると教室のあちこちから「わたしも。」「わたしも。」「…と声上がる。わたしは涙があふれる。とうとう、この日、わたしのひとりぼっちは終わる。光子もやがて、元の光子にもどる。

名前のない手紙を、わたしに書き続けてくれていたのは、吉野さんだったと、今も思う。

★1人ひとりの児童が、これまでのこと・これからのことを考えながら、そして自分の心と向き合いながら、思いを発言したり道徳シートに綴ったりしました。

発問① 「あなたが井上さんのクラスメートだったら、どうしますか。」

まずは明子に話しかけてあげる。その後に解決できなかったら、自分の分かる範囲で先生に全部伝える。

【男子】

私だったら、まだ光子がこわいし、自分がいじめられたらいやだから、光子の言うことをきいて、井上さんと話さないと思います。でも後で、あやまりたいです。【女子】

【第①場面】

私は、みんなと一緒に、井上さんをいじめてしまうかもしれない。【女子】



発問② 「もらった手紙を机の下にかくして、何度も何度も読み返したとき、

「わたし」(井上)は、どんな気持ちだったでしょうか。」【第②場面】

うれしい気持ち。心に刺さった針がちょっとだけ抜けそうな気持ち。うれしくて涙が出そう。

【男子】

本当は自分はひとりぼっちじゃなかった。自分のことを考えてくれてる子がいて、ほっとした。

【男子】&【女子】

みんながみんな、自分をきらっているわけじゃないんだ。【男子】

たった1人でも、私のことを心配してくれている。本当にうれしい。【女子】

みんな光子がこわくて、言うとおりにしてたんだ。私もこわいし。【女子】



発問③ 「これから、どんな気持ちで、どんなことに気をつけて、友達と接していきますか。」【第③場面】

泣いている子がいたら、「どうしたん?」とか聞いてあげたいです。また、誰かに話す前には、言っている事と言ったらだめな事(心を傷付ける事)を考えながらいきたいです。【女子】

わたしは、ひとりぼっちの子には、話しかけようと思います。そして、このクラス全員がずっと笑顔でいられるクラスにしたいです。【女子】

わたしは、いじめをしたことがあります。でも、これからは、ぜったいに、いじめをしないようにします。

【女子】



